

四季

遷り変わる 清水公園

清水公園

総面積 4.8 ha

池の面積 1 ha

手漕ぎ・足漕ぎボートあり

公園や河川の周辺で目にする野鳥として、一年中観察できる留鳥で大空を占有するトビ、春先に木のウロを叩いてドラミングの音を響かせるアカゲラやコゲラのキツツキ類、冬になるとエサ台の常連のハシブトカラ、シジュウカラのカラ類、溪流のほとりで水生昆虫をエサに暮らすカワガラスが見られます。夏鳥ではキジバト、ハクセキレイ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、キビタキ、アオジ、カワラヒワ、ベニナシコなどが明るい林のなかや水辺で鳴き声を聞かせてくれます。

つつじの鮮やかな赤と、遥か地平線のまだ雪を称えた阿寒の山並みの白と、中央の木々の緑が、みごとなコントラストを醸しています。

春

秋

さくらが随所に植えられ、さわやかな空気と、心地よい陽の光が感じられ、淡い色彩がところを和ます空間になっています。

山中に行かずとも味わえる紅葉は絶景！！
またこの時期の太鼓橋は、紅葉を反射しているようで一段と艶やか！

夏

冬

十勝管内では、数少ないボートに乗れる公園として、多くの家族連れ等が訪れます。

冬の間、池は厚い氷に覆われ幻想的な雰囲気があります

- 概要
- 特集
- 届出証明年金
- 税金・保険
- 健康福祉介護
- 子育て・教育
- 暮らしと環境
- 産業
- 議会・選挙
- 公共施設
- コミバス交通
- 防災
- 火事・救急
- ふるさと納税
- テレホンガイド

清水町は長大な日高山脈と十勝川に抱かれ
畑作と酪農を主体とする農業を基幹産業とする町

総面積 40,225ha
耕作面積 14,765.9ha

酪農の郷 清水町



- 概要
- 特集
- 届出証明年金
- 税金・保険
- 健康・福祉・介護
- 子育て・教育
- 暮らしと環境
- 産業
- 議会・選挙
- 公共施設
- コミバス交通
- 防災
- 火事・救急
- ふるさと納税
- テレホンガイド

家畜飼養頭数

乳用牛 26,289頭
肉用牛 29,721頭

(平成28年清水の農業概況より)



農作物作付面積

小麦	2,930ha
馬鈴薯	913ha
大豆	595ha
てん菜	1,300ha
スイートコーン	153ha
にんにく	27ha
アスパラガス	24ha

(平成28年清水の農業概況より)



生乳出荷量 約12万t

(平成29年十勝畜産統計より)



のびのび 子育て



げんきひろばに参加した子どもたち
～ ハロウィン ～

清水町の子育て支援

◆子育て・育児相談

お子さんの健康や発達、お子さんとのかかわり方で困っていることなどについて、保健師、心理士、言語聴覚士、保育士などの専門職員が相談に応じています。保健福祉センターへお越しいただくか、電話、電子メールでも相談をお受けしています。

- ・相談場所 清水町保健福祉センター（南3条2丁目1番地1）
- ・電話番号 TEL 0156-69-2226
- ・相談時間 月曜日から金曜日の午前8時45分から午後5時30分
※祝日、年末年始は休みです。
- ・電子メール genki@town.shimizu.hokkaido.jp

◆ひろば事業

就学前のお子さんが自由に遊んだり、保護者同士が育児の情報を交換したりできる、次の「ひろば事業」を開催しています。

- ☆げんきひろば
- ☆よちよちひろば
- ☆ファミリーデー
- ☆御影げんきひろば
- ☆ベビーマッサージ



概要
特集
届出証明年金
税金・保険
健康・福祉介護
子育て・教育
暮らしと環境
産業
議会・選挙
公共施設
コミバス交通
防災
火事・救急
ふるさと納税
テレホンガイド

◆ 出産祝金支給

お子さんのご誕生をお祝いするとともに、子育てを応援するため、出産祝金を贈呈します。

◆ 育児用品の貸し出し

チャイルド（ジュニア）シート、ベビーカー、ベビーラックを無料で貸し出します。

◆ 乳児保育金助成

生後10か月未満のお子さんを町内に在住する個人に有料で預けた場合に費用の一部を助成します。（助成には他に条件があります。）

◆ 子育てサポートしみず

子育ての手助けがほしい人（依頼会員）とお手伝いしたい人（提供会員）をつなぐ地域の子育て支えあいのシステムです。利用料金の一部を助成しています。

◆ 幼稚園・保育所と小学校の連携

保育所・幼稚園からスムーズに小学校に入学できるよう、年長児と小学生の交流や、保育士・幼稚園教諭と小学校教諭の相互の研修を実施するなど連携を図っています。

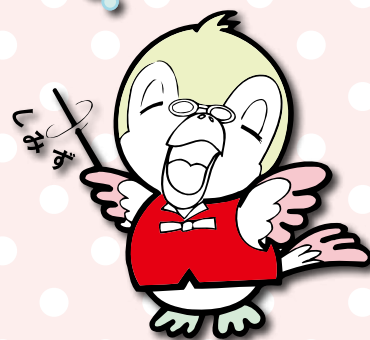
◆ 住宅取得助成

子育て世帯が住宅を新築又は購入する際に、その一部を助成します。



家庭・学校・地域が連携して
しみず「教育の四季」をすすめ、
心をかよわせ、互いに響き合う
感性豊かな教育を展開します。

地域みんなで
子育てを応援します。



第九のまち しみず

昭和55年に初めて交響曲第九番演奏会が開催されて以来、様々な関連事業を行ってきました。

「第九」という文化は教育の場にも根付き、子どもたちは幼稚園や保育所で第九を原語で歌えるようになります。子供から大人まで多くの町民が同じ歌を口ずさめる程、町民にとって馴染みの深い曲となっています。

町内では、多くの団体やサークルが多種多様な活動を続けてきました。その集大成となるのが、昭和55年に清水町文化センターが建てられた際に、初めての催しとして開催した「交響曲第九番演奏会」です。演奏会に向けて町民合唱団が結成され、年齢や職種に関係なく、合唱団は毎晩のように集まって必死に練習を重ねました。

ベートーヴェンの交響曲第九番は、音楽を学んだ者や一流の合唱団しか歌うことが出来ないと言われていました。そんな常識を覆し、町民204名の歓喜の歌は多くの人たちに感動を与えました。この演奏会をきっかけに「第九のまちしみず」として、全国にその名が広く知られるようになりました。それ以来、演奏会は5年ごとに開催され、平成22年に第7回目を迎えました。町民の文化に対する情熱とエネルギーは、昭和55年から今年で38年を迎えますが、今もなお連綿と受け継がれています。

平成27年には、初の試みである「第九のあゆみ展」が開催され、より多くの方々に第九について知っていただくために、歴史ある懐かしい品々が展示され、第九やベートーヴェンについて理解を深められるコーナーや、来場者の方に書いて頂いた第九への想いを展示するコメントツリーのコーナーなども設けられ、第九を知っている人も知らない人も楽しめる展示会となりました。会期中には

清水高校の第九合唱や、清水幼稚園の子供たちが第九を披露するなどし、最終日にはせせらぎ合唱団のコンサートで締めくくられました。「第九のあゆみ展」は、町内外から約900名の方々が足を運んでくださいました。

また、平成30年1月28日に文化センターにおいて開催された、北海道農民管弦楽団による定期演奏会にて、台風被害からの復興を胸に結成されたペケレベツ合唱団による「第九」の合唱が行われ、町民や十勝管内在住の合唱愛好者を中心に、小学生から80代までの約190名がステージに立ち、農民管弦楽団の演奏で高らかに歌い上げました。苦悩を乗り越えた先にある未来への希望に満ちた「歓喜の歌」は、800人余りの観衆の心に深く響き渡りました。



アイスホッケーのまちしみず

昭和12年、御影小学校に赴任した加藤光也教諭が、割った竹を布で包んだスネ当てのみをまとったアイスホッケーチームを結成。御影中学校長として再赴任した昭和24年、校庭近くの川の水で初めて造成した10畝四方ほどのスケートリンク。アイスホッケーのまちの歴史はここから刻みはじめます。



清水御影アイスホッケー少年団や、本町アイスホッケーチームの先駆けとなった御影中学校アイスホッケー部は全十勝A（清水、芽室、新得の連合チーム）として、全道全国に名を馳せる強豪チームへと成長を遂げています。

この町で育った選手の中から大学、社会人チームやアジアリーグ（かつての日本リーグ）そして世界で活躍する選手が数多く輩出されています。

平成4年、町村では全国初、十勝管内では帯広市に次いで2番目の屋内リンク「清水町アイスアリーナ」が御影地区に建設されます。床面のパイプから冷却し氷面をつくるパイピング方式の公式リンクには、電光掲示板、控室やトレーニングルーム、2階部分には198席の観客席があります。アリーナの建設がきっかけで社会人チームが次々と誕生し、現在では子どもから大人まで町内20チーム、約450人の町民がアイスホッケーを競技しています。



アイスホッケーの裾野拡大のため、様々なイベントや教室を開催しています。

毎年元旦に行われる御影地区の伝統行事「新年氷上まつり」ではスケートを通して多くの町民が交流を深めます。また、心身の鍛錬と高度な技術習得のため幼年から中学3年生が所属する十勝ジュニアアイスホッケークラブを設立しています。特に就学前の幼年の部では、楽しく手軽にアイスホッケーに触れられるよう、必要なひと揃いの防具を40人分用意しています。



概要

特集

届出証明年金

税金・保険

健康・福祉介護

子育て・教育

暮らしと環境

産業

議会・選挙

公共施設

コミバス交通

防災

火事・救急

ふるさと納税

テレホンガイド

清水町の 社会教育

自立した活力あるまちづくりを促進する上で、町民それぞれがまちづくりにおける責任と役割を認識し、自発的に行動することが重要です。

そのためには、家庭・地域・行政の連携を通じてみんなが社会教育活動によってつながりあい、共に活動する機運を高めて、地域の連帯感や絆を感じてもらうことが必要です。このことから、目標としての社会教育の姿は「人と人とのつながりを深め、主体的に地域をつくる人材を育てる」を目指しています。

◆青少年教育

◎チャレンジクラブ

小学生を対象としたチャレンジクラブは、みんなで一緒にグループ遊びや自然体験など行います。



わくわくキャンプ2018

◆成人教育

◎しみず学園

60歳以上を対象にした通年講座で、住民の生き甲斐ある人生観の確立や、社会の進展に対応するために必要な知識、教養、生活技術等の学習をしています。



2018開校式

◆家庭教育

◎生活リズム学校

小学校5～6年生を対象とした通学合宿で、炊事や洗濯、掃除などの生活体験を行いながら学校へ通います。約1週間、規則正しい生活・自立した生活を学んでもらいます。



2018生活リズム学校

◆各種講座

社会教育課では、各種講座等を行っています。
申込・受付はお知らせ版・ホームページでご案内します。



親子木工教室



絵手紙講座



清水高校開放講座：「カラフルスライムを作ろう」

問合せ先

清水町教育委員会社会教育課

〒089-0111 南3条3丁目1番地 文化センター内
TEL 0156-62-5115 FAX 0156-62-6333